

徹底解説！ダイオキシンの生体代謝をめぐる新たな知見と環境制御・計測技術の現在

— 人と化学物質は共存(棲み分け)できるのか? —

廃棄物資源循環学会関西支部・日本環境化学会関西地区部会
連携セミナー

共催
大阪工業大学 工学部 環境工学科・応用化学科・生命工学科
摂南大学 薬学部

趣旨説明

大阪工業大学 工学部 環境工学科 渡辺信久

いま、なぜこのセミナーか

◆ 生命科学分野

- 薬物代謝・免疫での遺伝子とタンパク質の関わり: 腸内フローラ、アレルギーなど興味対象が「刺激に対する生体反応とその制御」に移ってきている

◆ 廃棄物資源循環分野

- ダイオキシン、POPs ー→生成抑制・分離と隔離 ー→人為活動で非意図的・宿命的に生成ー→近くにあっても棲み分けることはできるのか

◆ 環境化学分野

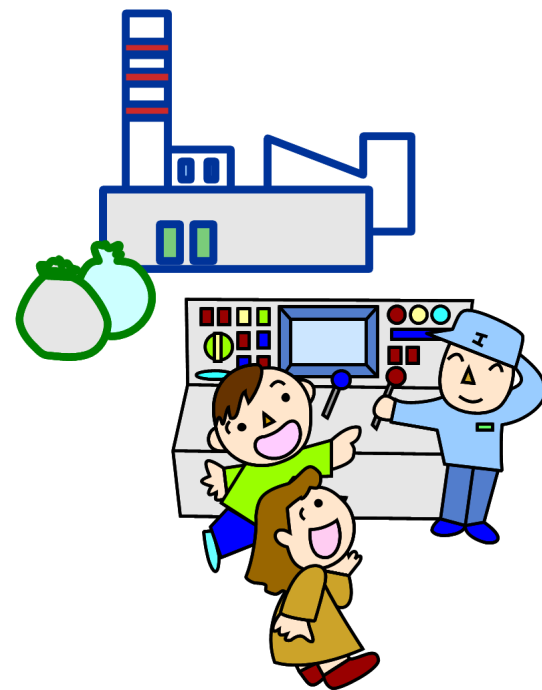
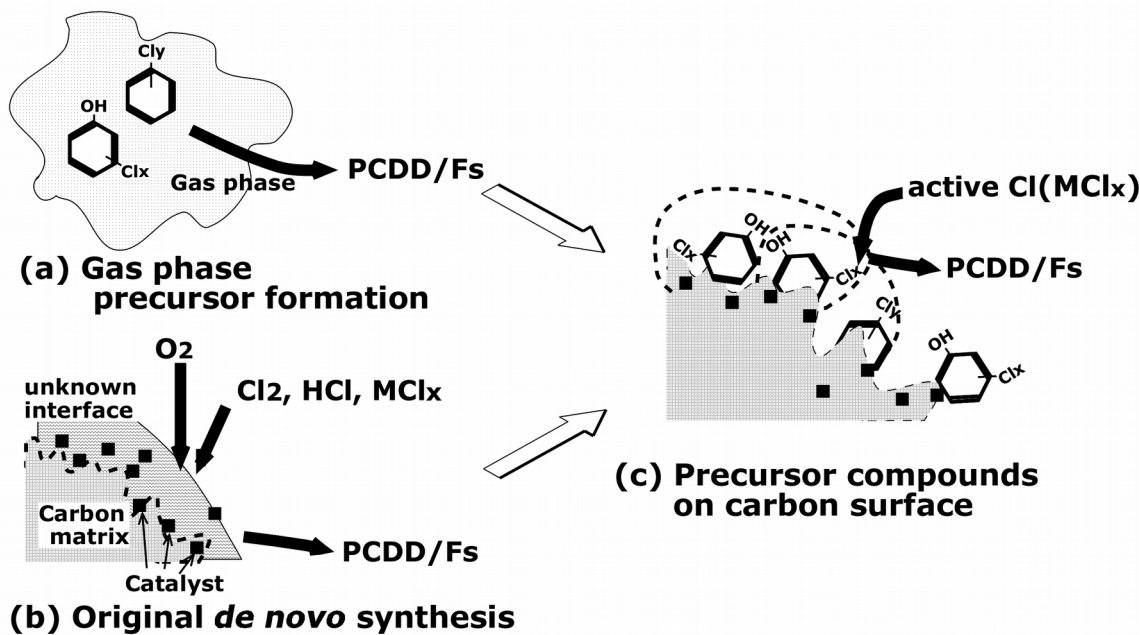
- ダイオキシン ー→ その類縁化合物 ー→ AhR活性もしくは他の生理活性を持つ化学物質がある ー→ どのような物質がそうなのか・どのように変化するのか

◆ 各分野が新たな段階に踏み出している。

- ー→互いに入門的で横断的なセミナーが必要

【廃棄物資源循環分野】化学物質の分解と分離から考える ダイオキシン・POPs対策 - 環境のための最良の慣行を探る -

「ごみからダイオキシン」を「宿命的なもの」として受け入れ、克服するのに20年かかった。



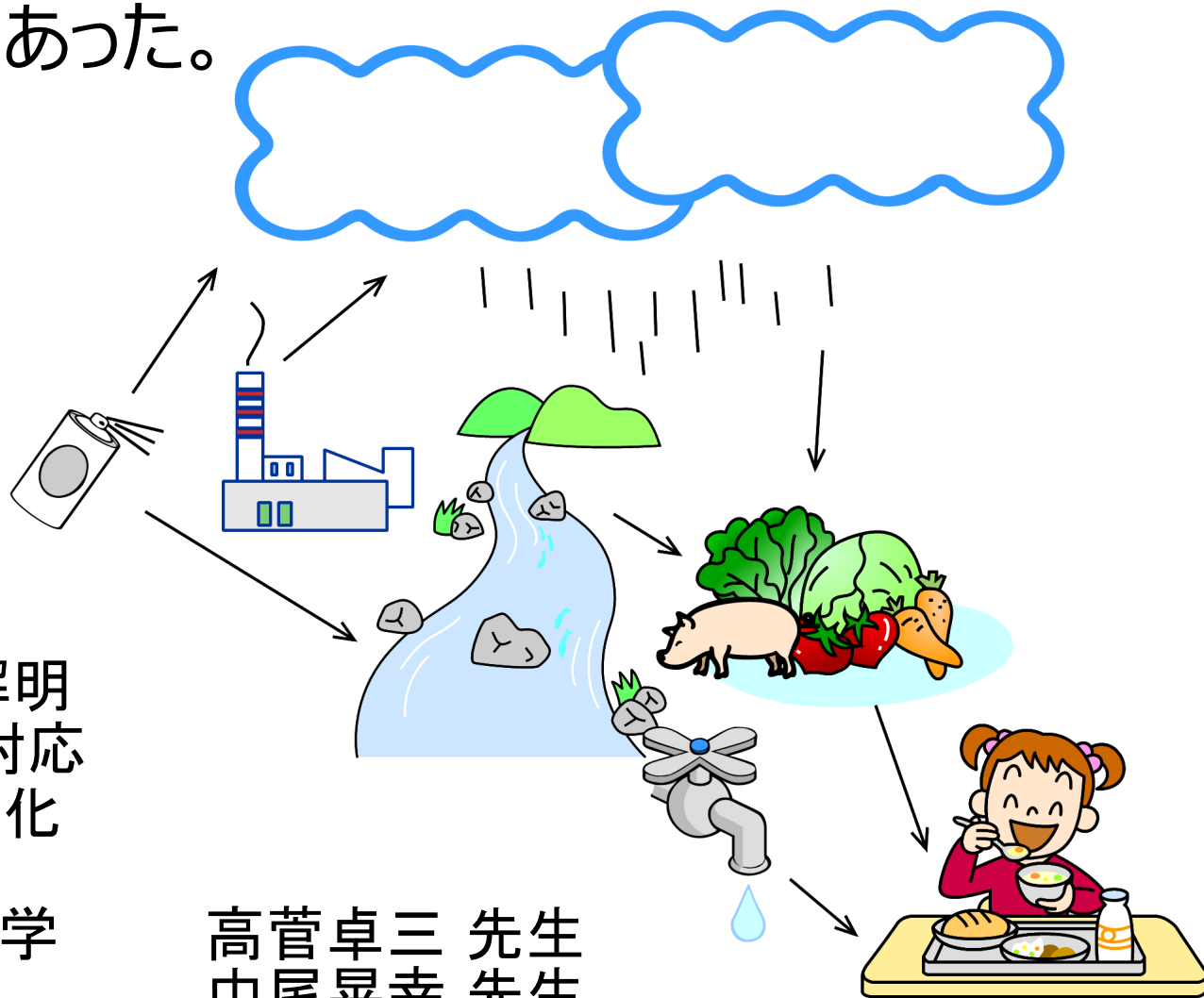
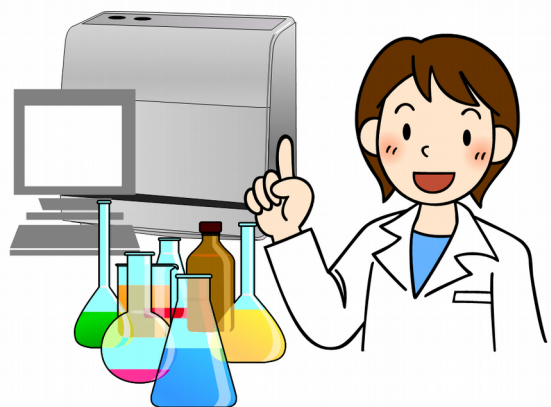
生成抑制
分離と隔離
POPs無害化と分子設計

岡山大学 教授
京都大学 助教

川本克也 先生
藤森 崇 先生

【環境化学分野】 生体内と環境中での化学物質挙動の 類似点と相違点 —POP中間代謝物への挑戦—

そもそも、「これがダイオキシンだ」と測ることができるようになったことが、コトの発端であった。



環境中での存在、給源の解明
継続的な新規POPへの対応
環境中・生体中での形態変化

島津テクニクス 愛媛大学
摂南大学 准教授

高菅卓三 先生
中尾晃幸 先生

人と化学物質は共存（棲み分け）できるのか？

